

産地戦略

実施期間 令和6～11年度

実施主体 湯川村農業技術者連絡協議会
都道府県 福島県
対象地域 湯川村
対象品目 水稻



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

持続可能な農業経営と農業・農村の維持・発展を図るため、多くの農業者の取組が期待できる省力化と環境負荷軽減の双方に寄与する技術を取り入れた地域農業の確立を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	播種	育苗	代かき	移植	薬剤								
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		代かき	播種	薬剤	追肥								
技術名		○	◎	◎	◎								○代かき同時播種 ◎ドローン散布

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	656	▶ 650	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1.25	▶ 3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	65	▶ 80	特裁認証面積、環直面積
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1.25	▶ 3	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料を主とした施肥設計	▶ 有機質資材の活用	化学肥料（窒素成分）の使用量削減
省力	育苗後の移植栽培 動噴などによる肥料・農薬散布	▶ 代かき同時播種機 ドローンによる栽培管理	育苗や移植作業の省略による農業経営の省力化 除草剤散布や追肥作業の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料（窒素成分）の使用量	6kg/10a	▶ 3kg/10a	コシヒカリ当地慣行栽培比5割減
省力	播種、育苗に係る作業時間	150分/10a	▶ 130分/10a	聞き取り、実証における作業時間
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

湯川村農業技術者連絡協議会の構成員である湯川村、福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所、会津よつば農業協同組合が連携して、新規取組者を中心に技術普及のための現地研修会や講習会を開催し、技術の普及・定着を目指す。

関係者の役割

関係者名	湯川村農業技術者連絡協議会	湯川村	福島県会津農林事務所 会津坂下農業普及所	会津よつば農業協同組合
役割	・技術普及のための講習会開催	・認定農業者連絡協議会との調整	・新規取り組み者への技術指導 ・技術普及のための現地研修会開催	・広報誌等による技術の発信 ・農産物の集荷、販売

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R6）（ha）	備考
なし			

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

湯川村で開催される新米まつりにおいて販売や消費者へ取組内容の情報発信を行う

その他